

「水のマエザワ」東南アジア留学奨学金 帰国報告会

実施日：令和5年3月10日（金） 11：00－12：00

主 催：前澤工業株式会社

会 場：前澤工業株式会社 アクアテクノセンター

参加者：20名

1. 開会挨拶（前澤工業株式会社 海外推進室 檜垣室長）
2. 来賓挨拶（埼玉県県民生活部国際課 福田主幹）
3. 帰国報告

奨学生：大谷理香さん（お茶の水女子大学 文教育学部人文科学科3年）

留学先：タイ王国 タマサート大学 6か月

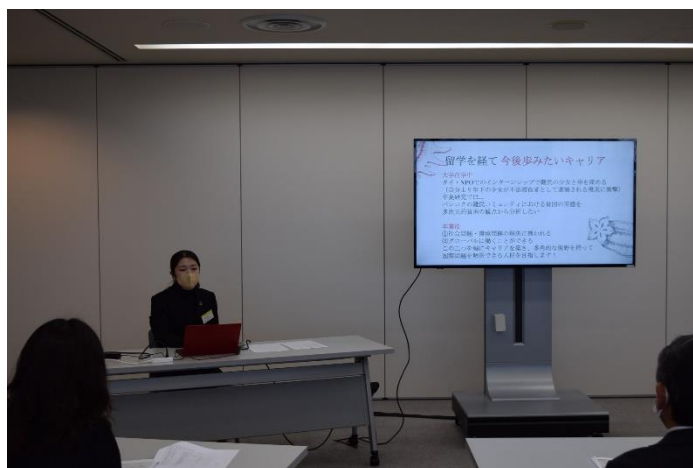
タイ王国 アジア工科大学院 5か月

4. 質疑応答
5. 閉会

【報告内容】

自己紹介の後、タイ留学中に学んだこととお話いただきました。大学で国際協力を学ぶ大谷さんは、ご自身の人生でどれだけ人のために生きられるだろうと考え、国際協力の道に進まれたと言います。カンボジアでフィールドワークを行った際に農村と都市部の子どもの発育に差があることに気が付き、その背景には栄養格差があるのではないかと思い、栄養学に興味を持ったことから、理系科目である栄養学や食物学、さらに水の安全保障といった授業も履修し、ご自身の専門にとらわれず、知識を深めてこられたのだそうです。

タイは東南アジア地域において農業大国であり、かつ最も所得格差が大きい国ということで、今回の留学では貧困削減や農村開発について学びたいと考え、タマサート大学の社会行政学部及びアジア工科大学院環境・資源・開発研究科に留学されました。タマサート大学では、タイにおける貧困問題解決のための政策立案方法を、アジア工科大学院では、農村部でのフィールドワークを通じて持続可能な農村開発や環境問題を学ばれました



報告会では、主にタイの社会問題と水環境について、大谷さんが現地で得た知見をお話いただきました。まず、タイにおける社会問題として3つを挙げて説明されました。1つ目

は、無国籍者の貧困についてです。タイはミャンマーなど周辺諸国から難民が多く避難しているにも関わらず国連の難民条約に批准しておらず、難民は「逮捕すべき不法労働者」であり、避難民の子どもとしてタイで生まれるとミャンマー国籍もタイ国籍も得られず、無国籍者となり、身分証もないため、就職や就学、医療へのアクセスも限られるなど、様々な権利がはく奪されている状態だと言います。

二つ目は、都市部の子どもの肥満と農村部の子どもの低栄養の問題です。都市部の子どもは、タイ独自の外食文化や脂肪や糖分を多く含んだファストフードにより肥満に、農村部の子どもは、乳児の頃の不十分な栄養補給や、伝統的な食習慣により低栄養に陥るケースがあること。三つ目の問題として教育格差を挙げ、居住地と生まれてくる社会階層、収入によって受けられる教育に差が生じていることをお話しくささいました。

続いて、タイにおける水環境についてお話がありました。まず、タイでは水処理場が足りておらず、生活排水の約 55%がそのまま放出されていること、市民の環境意識が低く、テイクアウトのプラ容器などが川に捨てられてしまうため、バンコクでは毎日約 150 トンのごみを川や運河から排除しなければならないほどだそうです。バンコクでは上水道が約 8 割普及していますが、農村部での普及率はとても低く、各家庭またはコミュニティで水瓶（大きなプラ製のもの）に雨水を貯めたり地下水を利用したりしてコミュニティレベルの小規模水道で水を供給しているところもあるとのことでした。

また、タイの都市住民の水使用についてもお話がありました。お風呂につかる習慣がなくシャワーが一般的だそうで、帰国して日本で湯船につかってほっとされたことなど、タイで生活されて感じた水事情についてもご紹介いただきました。

最後に、大谷さんは大学卒業後、社会問題・環境問題の解決に関わる、グローバルに国際問題を解決に資する人材として留学で得た学びを社会に還元したいと決意を述べられました。

